第２章　長野市の文化財

１　文化財に関するこれまでの調査

これまでに本市域で実施された行政や大学等研究機関による文化財調査の主なものは下表のとおりである。

文化財調査・調査報告書名	実施年度・刊行年	実施主体	概要
『長野県民俗調査10　松代町の民家』	1970年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民家緊急調査」の一環として実施。武家屋敷9棟、町家3棟、城絵図等を調査。
『裾花渓谷の民俗ー裾花川ダム水没地区民俗資料緊急調査』	1971年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗資料緊急調査」の一環として実施。
『戸隠－総合学術調査報告』	1971年	戸隠総合学術調査実行委員会	1963年から3か年にわたって戸隠山の歴史・美術・建築・考古・民俗・地理・地質・動物・植物各分野を対象にした総合的な学術調査を実施し、1971年に調査成果を取りまとめた報告書を刊行。
長野市石造文化財調査	1977年～1982年	長野市教育委員会	「郷土を知る会」に委託し、悉皆調査を実施。『長野市の石造文化財』第一集～第五集にまとめ、刊行。
『北国街道ー歴史の道調査報告書Ⅲ』	1980年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『善光寺道ー歴史の道調査報告書Ⅳ』	1981年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
長野県近世社寺建築緊急調査	1981年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近世社寺建築緊急調査」の一環として実施。長野市域（長野市・豊野町・信州新町・戸隠村・鬼無里村・中条村・大岡村）の近世社寺52ヶ所の把握。そのうち14社寺の詳細調査。
『庭園都市松代　伝統的建造物群保存対策調査報告書』	1982年	長野市教育委員会・東京大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向けた地域調査を実施。
『長野県民俗文化財分布調査報告書』	1984年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗文化財分布調査」の一環として実施。
『長野県の民謡ー民謡緊急調査報告書』	1984年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民謡緊急調査」の一環として実施。
『裾花川通り大町道ー歴史の道調査報告書XIV』	1985年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『土尻川通り大町道ー歴史の道調査報告書XV』	1985年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『長野市松代三町水路活性化についての調査報告書』	1985年	信州大学工学部	松代町の水路網・水源地の調査。
『戸隠道ー歴史の道調査報告書XVI』	1986年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『中条村の石造文化財』	1988年	中条村教育委員会	旧村時代に実施した中条地区の石造物悉皆調査の報告書。
『保科道ー歴史の道調査報告書XXⅧ』	1989年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
長野県近世社寺建築第二次調査	1990年	長野県教育委員会	長野市域の15社寺を調査。
『長野県の諸職ー長野県諸職関係民俗文化財調査報告書』	1990年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。
『千曲川ー歴史の道調査報告書XXXⅠ』	1991年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。
『犀川ー歴史の道調査報告書XXXⅡ』	1992年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。

文化財調査・調査報告書名	実施年度・刊行年	実施主体	概要
『鬼無里の石仏』	1994年	鬼無里村教育委員会	旧村時代に実施した鬼無里地区の石造物悉皆調査の報告書。
『むしくらー虫倉山系総合調査研究報告ー』	1994年	虫倉山系総合調査研究会	1987年～1994年にかけて、長野市・旧戸隠村・旧鬼無里村・旧中条村・小川村が共同で、虫倉山に関わる人文・自然分野の総合調査を実施し、報告書を刊行。
『長野県の民俗芸能ー長野県民俗芸能緊急調査報告書』	1995年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗芸能緊急調査」の一環として実施。市域では松代地区の大門踊り、安茂里地区の犀川神社太々神楽、戸隠地区戸隠神社の太々神楽が詳細調査の対象となっている。
伝統的祭り・行事・民俗芸能等の調査	1999年	長野市教育委員会文化課	旧長野市域で行われている民俗芸能等の実態把握を目的に地域公民館へアンケート調査を実施。伝統的祭り・行事・民俗芸能、合わせて267の事例を把握。獅子舞については50の事例を把握。
『戸隠村の石造文化財』	2004年	戸隠村教育委員会	旧村時代に実施した戸隠地区の石造物悉皆調査の報告書。
善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査	2004年～2008年	長野市教育委員会文化財課・　信州大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け善光寺本堂を含め本坊、宿坊群、仲見世、門前商家、周辺寺院の悉皆的建造物調査を実施。
『長野県の近代化遺産』	2009年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近代化遺産（建造物等）総合調査」の一環として実施。市域では善光寺門前の醸造や善光寺門前の商家、長野県庁舎、松代大本営跡などが取り上げられている。
『大岡の石仏：大岡地区石造物調査報告書』	2011年	長野市立博物館	旧大岡村の石造物悉皆調査。
長野市戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査	2014年～2015年	長野市教育委員会文化財課・　信州大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け戸隠神社を中心に形成された門前町の悉皆的建造物調査を実施。
『松代城下町庭園調査報告書』	2015年	長野市教育委員会文化財課・　信州大学農学部	松代地区の庭園・水路網の調査。
『長野県の近代和風』	2018年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近代和風建築総合調査」の一環として実施。
地域のお祭り調査	2018年	長野市文化スポーツ振興部文化芸術課	長野市域内で結成されている神楽保存会256団体（うち13団体は活動中止中）を把握。

※このほかに埋蔵文化財調査が 169 件あり

2　地域計画の作成に伴う調査

本計画の作成に伴い、既往資料調査・現地調査・アンケート調査を実施した。

（１）既往資料調査

ア 先に挙げた文化財調査の報告書を含めた長野市域に関わる郡史・地域誌、住民自治協議会や自治会などが発行した自治会誌（史）、郷土雑誌等に掲載された歴史学・民俗学・考古学及び建築・街並み・民話・自然・災害等の調査研究成果といった文献を収集した。（計 2,024 点）

イ 国県市指定文化財、遺跡全件一覧表、地域伝統芸能一覧（文化芸術課作成）、地域のお祭り（文化芸術課作成）のほか、上記アの文献から抽出される文化財のリストを統合して 32 地区別に分けた（指定・未指定を含めた文化財 4,656 件、地区別種別件数は下表参照）。ただし、未指定の文化財については所在の確認までには至っていないものが多いため、計画作成後に確認調査を進めていく必要がある。

長野市 32 地区文化財リスト（地区別種別件数）

地区	有形文化財									無形文化財	民俗文化財			記念物					伝統的建造物群	文化的景観	地区別合計
	建造物	美術工芸品									有形の民俗文化財	無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物			
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料	歴史資料			風俗習慣	民俗芸能								
第一	13			1			129		9		5	10	6								173
第二	24	33	10	10	1		198	1	2	1	10	8	5	2		1					306
第三	1						53				5	1	1								61
第四	5		2	1			37	1	4		3	1	1								55
第五	2		1	1			7		5		2		3								21
芹田	8		4				66	2				20	8								108
古牧	24	5	5		3		5		2			43	9	5		13					114
三輪	1						47					2	4	1							55
吉田	3	2					9		1			11	6	2		1					35
古里	22						15					7	7	7		1					59
柳原	8						17				1	5	4								35
浅川	3						7					18	7	4				1			40
大豆島	10						19			1			4	4							38
朝陽	1						18		1			9	8								37
若槻	61		16				27		3		1		9	18		1					136
長沼	26	3	2		2	2	24					3	7	6	15	3					93
安茂里	15	3	28	2	1		119	6	20			16	6	4							220
小田切	51		6				42	1				2			8	18		5			133
芋井	7		16				19		2			27	7	2		9					89
篠ノ井	57	1	8			1	114	12	22			24	29	8		2					278

地区	有形文化財									無形文化財	民俗文化財			記念物					伝統的建造物群	文化的景観	地区別合計
	建造物	美術工芸品									有形の民俗文化財	無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物			
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料	歴史資料			風俗習慣	民俗芸能								
松代	182	21	20	12	4	1	129	1	28	3	1	23	12	24	8	3	2				474
若穂	107	4	57	2	1		120	4	15		3	29	24	4	2	2	1	1			376
川中島	26		4		1		87		2		1	21	20	3							165
更北	49	7	6	1			150	1	1		1	19	14	5		2					256
七二会	18		3				112					4	9	1		4					151
信更	66		6		5		30		1			50	2	1							161
豊野			3	1	1		94	3	1	2	7		8	6	1	5		1			133
戸隠	38		8	2	2		1		4	1		6	22	13	1	9	1	2	1		111
鬼無里	37	3	8	6			107		6			1	10	4	2	13	2	11			210
大岡	38		3			1	85		4			4	4	1	1	3					144
信州新町	5		223					1					5	3	1	1		4			243
中条	5	1	128										6	3		2		1			146
計	913	83	567	39	21	5	1887	33	133	8	40	364	268	131	39	93	6	26	1	0	4656

※空欄は物件なし（＝０件）を示す

32 地区図

(2)現地調査(令和3年度～5年度)

地域計画作成後の文化財把握調査を見据え、モデルケースとして市立博物館を中心に善光寺(ぜんこうじ)(第二地区)周辺地域における仏教美術及び祭礼調査を実施した。調査結果については計画作成後、市立博物館の展示あるいは報告書等で公開する予定である。

ア　仏教美術調査

善光寺の周辺には数多くの寺院が存在するが、仏教美術に関してはこれまで悉皆(しっかい)調査が行われてこなかった。そのため市立博物館を中心に、外部からの有識者の協力を得ながら、3年間で悉皆的な調査を実施した。調査対象とした寺院は善光寺大勧進(第二地区)を中心に、善光寺にゆかりがある往生寺(第一地区)・仏導寺(芹田地区)・無常院(安茂里地区)・正覚院(安茂里地区)・長谷寺(篠ノ井地区)・常行寺(川中島地区)・今里阿弥陀堂(川中島地区)・観音寺(第五地区)等で、平安から鎌倉期制作の仏像が新たに複数確認されるなどの成果が見られた。

イ　ながの祇園祭(ぎおんさい)調査

現在、毎年 7 月に行われているながの祇園祭は、善光寺周辺の町を中心として行われ、「善光寺祇園祭」、「弥栄神社御祭礼(やさかじんじゃごさいれい)」等と呼ばれてきた屋台の巡行を伴う祭礼であり、通称「御祭礼」と呼ばれている。江戸時代より続く祭礼であるが、戦後に一時途絶え、その後「ながの祇園祭」として復活した。

「御祭礼」についてはこれまでも研究調査が行われているが、祭り総体を捉えた本格的な調査はされてこなかった。本調査では調査成果の活用により善光寺周辺地域の活性化や研究の発展に寄与することを目的とし、祭礼の中断から「ながの祇園祭」として復活した経緯や、現在の御祭礼の状況について重点的に調査をおこなった。

(3)アンケート調査

ア　まちづくりアンケート調査

まちづくりアンケートは、市政に対する市民ニーズ、市が実施する事業に対する考え方、意見、優先度などを調査し、今後の施策の基礎資料とするため毎年実施しているものであるが、このアンケートで令和3(2021)年に「長野市における文化財の保存と活用をめぐる状況について」の設問を設定し、文化財に対する市民の意識調査を実施した。

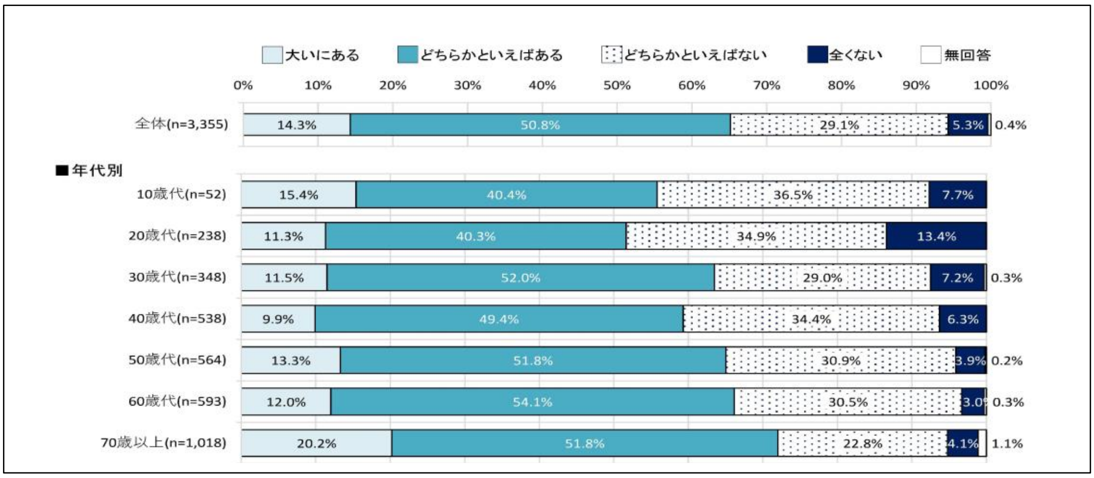
アンケートは市内在住の 18 歳以上の男女で、住民基本台帳から無作為に抽出した 5,000 人を対象に行い、3,355 人から回答を得た。

上記の設問について以下の五つの質問事項を設定した。回答方法はいずれも選択肢を選ぶ方式とした。

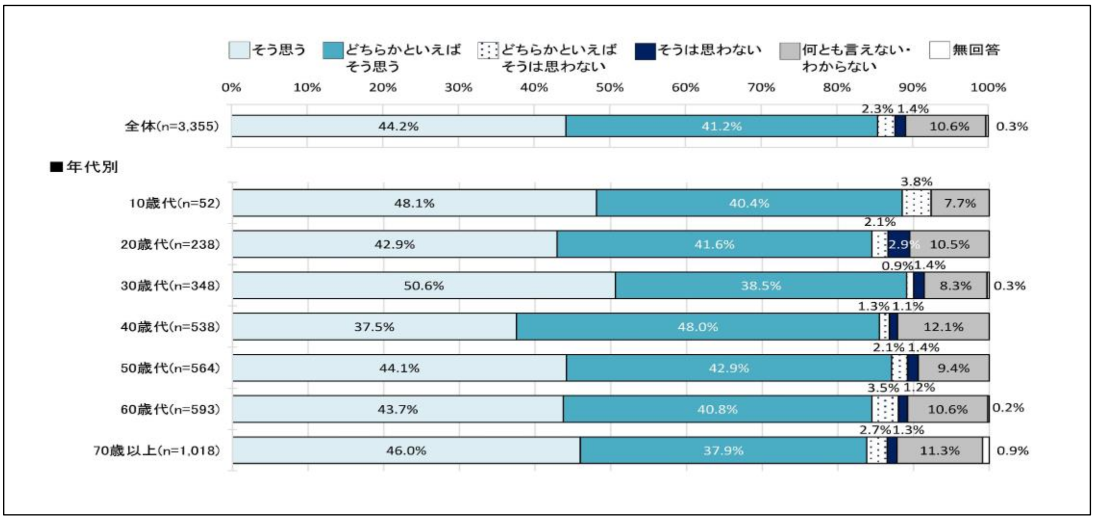
1. あなたは、長野市の歴史や文化について関心がありますか
2. あなたは、長野市の歴史や文化を保存・活用することは、重要だと思いますか
3. あなたは、長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があると思いますか
4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で、あなたが、協力できそうなことは何ですか
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施したほうが良いと思うことは何ですか

アンケート結果は次の通りである。

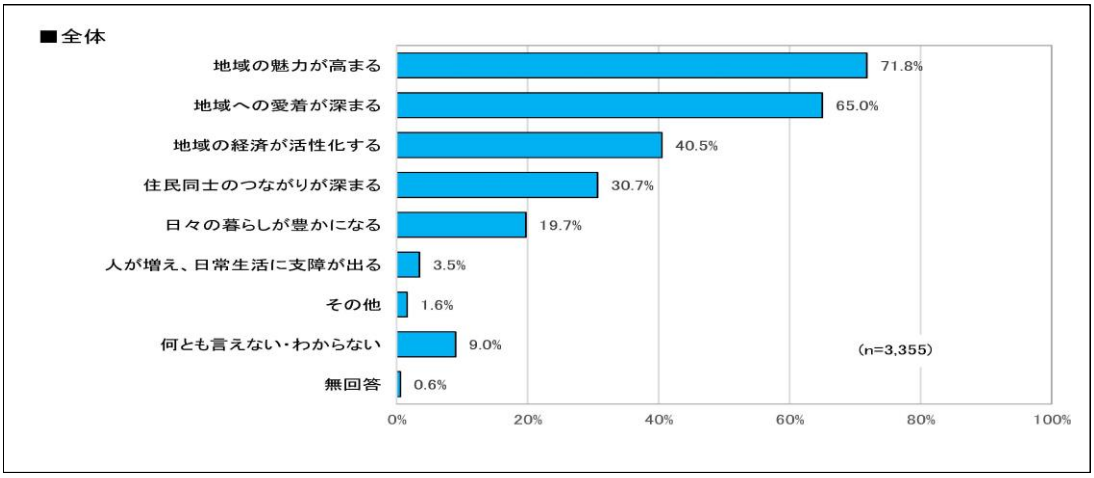
1. 長野市の歴史や文化について関心があるか聞いたところ、関心がある人は回答者の3人に2人の割合にのぼった。ただ年代別にみると 20 歳代では半数近くが「関心がない」と回答した。



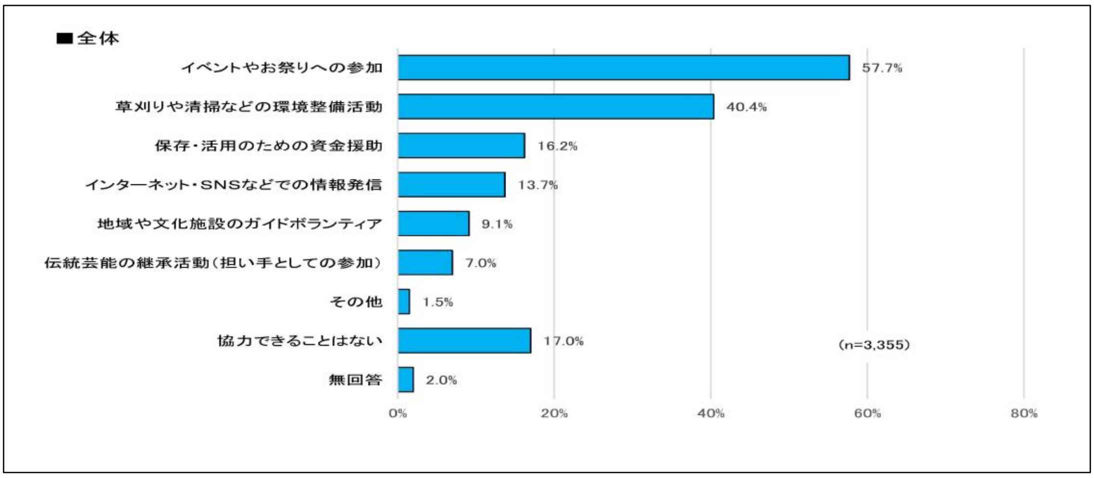
2. 長野市の歴史や文化を保存・活用することが重要であるか聞いたところ、重要であると思っている人は 85.4%と大半を占めた。



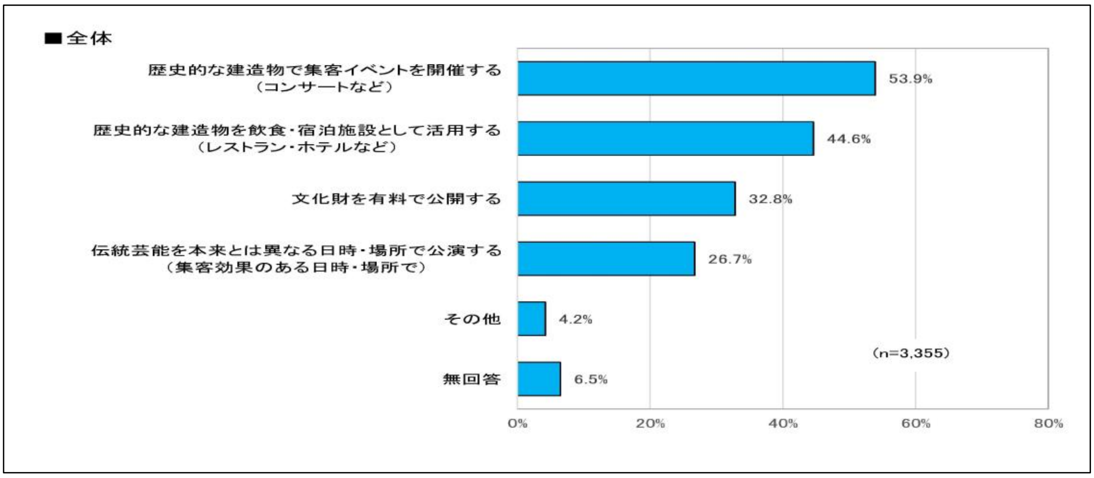
3. 長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があるか、三つ以内で挙げてもらったところ以下のような順になった。



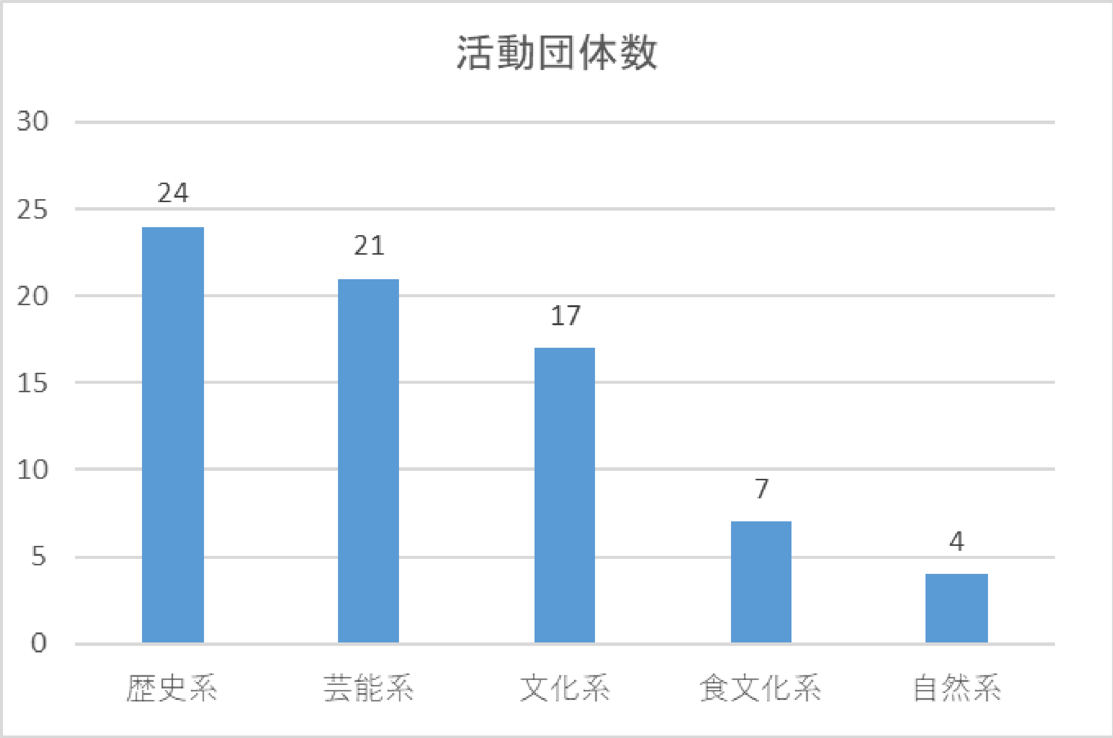
4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で協力できそうなことは何か、複数回答で聞いたところ、以下のようになった。年代別では、10 歳代で「イベントやお祭りへの参加」が高く、10 歳代から 30 歳代の若年層では「インターネット・SNSなどでの情報発信」が高い傾向が見られた。



5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施した方が良いと思うことは何か、二つ以内の複数回答で聞いたところ以下のような順となった。



全般的に長野市の歴史文化に関心があり、その保存･活用が重要であると考えている人が大半にのぼること、そのなかで歴史文化を活用することが地域の活性化につながると考えている人が多いことが分かった。また、回答者の半数が歴史文化の保存･活用にあたって何らかの形で協力ができると考えていることが分かった。

イ　市立公民館･交流センターアンケート調査

地域計画作成後の文化財保存活用にあたって、様々な場面で連携が想定される文化財に関わる活動団体の把握のため、市立公民館･市交流センター29 館にアンケートを実施し、各館で把握している活動団体の名称と人数についての情報提供を依頼した。その結果、古文書解読や史跡調査等を行っている歴史系の団体が 24、甚句や太鼓などを実演している芸能系の団体が 21、俳句や美術系の活動を行っている文化系団体が 17、郷土料理の保存活動をしている食文化系の団体が7、天然記念物の保護活動や山城のトレッキングコース整備等の活動を行っている自然系の団体が4の合計 77 団体を把握することができた。